



特別講演会を開催しました

令和4年2月28日に卒業を迎えた3年生と在校生を対象に特別講演会を開催しました。



「バカボンパパに学ぶ苦悩の人間学」と題して、京都大学大学院 人間・環境研究科の佐藤泰子先生からオンラインでの講演を行っていただきました。「人が苦しいとはどういうことか」、人間が苦しみを「語ること」は考えていることの一部でしかなく、看護師として「聴くこと」の本当の意味や重要性を知ることができました。「聴く」「観る」ことの大切さや「寄り添うこと」「向き合うこと」の意味を考え、患者さんとのコミュニケーションに生かしていきたいと思えます。

この講演会での学生の感想は、

「立ち位置が違えば見方が変わる、話すことで意味・認識が変わる、という事が印象的だった」「理想（希望）とギャップがあるから苦しいという苦悩を抱く、ということのを忘れずに接していきたい」「言葉で表現できないことを表情や態度から読み取れる。話しかけやすい雰囲気は大事であることを学んだ」「その人の中にある感情は言語化されないため、雰囲気や会話、生活からその人を見られるように頑張りたい」「無理に話を引き出そうとするのではなく、患者さんが話せるようになるまで待ったり、話をしてくれた時は思いを受け止めてあげられるような看護師になりたいと思った」「これでいいのだ」から「これがいいのだ」に変わっていくという話から乗り越える力や高めるためにサポートすることやそばにすることが大切だと感じた」等、たくさんの学びにつながったとの感想がありました。

